

日本語の文における「本当」についての言葉の分析

序論

日本語での一つの品詞分類は名詞である。富田（1991：4）の名詞について説明によると：「もの」や私たちが行う「こと」には名詞が付けられている。「時」や「場所」についても、その時や場所を明確にしたり区別したりするために呼び方が決められている。森田（1990：935）によって提案されたように、「本当」は名詞である。森田（1990：935）の「本当」の説明によると：うそでないこと、まこと。新村（1991：2385）の説明によると：偽りや見せかけでなく、真実、実際であること。庵（2000:378）の副詞について説明によると：副詞は動詞や形容詞を修飾することを本務とする品詞であるが、形式的にも意味的にも様々なものが含まれる。「本当」は助詞「に」と一緒に、「本当に」となる。森田（1990：935）の「本当に」の説明によると：たいへん、ひじょうに。金田一（1995：1207）の説明によると：言葉の真実の意味において、そうであることを表わす、実際、全く。時枝（1987：1952）の説明によると：感動として程度のはなはだしいことをいう。そして、「本当」は助詞「は」と一緒だったら、「本当は」になる。巖原（1998：388）の説明によると：実際は、実は、逆接関係を表す。Richards（1985:51）によると：定形動詞を含まず、主部述部構造をとらない、句は通常、その中心語すなわち主要部によって、名詞句、動詞句などに分類される。文の中で「本当」の使い方によって、違いがあるので、研究者は「本当」について分析をする必要がある。

本研究で必要なデータは、図書館で利用可能な本からのデータを収集することによって、例えば、文献の技術を用いて収集した。収集したデータは、記述や分布の評価方法によって分析される。それから、データは、基本的な分析技術 BUL(bagi unsur langsung) の技術を用いて分析する。

本論

構文の機能と「本当」が日本語の文において見ることができる。ここに文章や分析の例を以下に示す。

1. 本当のことを言うと、ママはとても不安だったのだ。(TC, 1996:12)

Hontou no koto wo iu to, mama wa totemo fuan datta no da.

Ketika mengatakan hal yang sebenarnya, ibu sangat khawatir.

文章番号 1 では複文だ。本当という単語は「本当のことを」という名詞句を作る。その名詞句の関数の構文は目的語だ。

文章番号 1 に含まれる「本当」という言葉は、その「こと」は真実、事実、うそではないという意味である。相手に伝えたいのはママは知らないので、主語がそのことを言うと、とても不安になった。

2. 本当の電車が六台、教室用に置かれてあるのだった。(TC, 1996:30)

Hontou no densha ga rokudai, kyoushitsu ni okarete aru no datta.

Kereta asli berjumlah 6 buah, disediakan untuk menjadi kelas.

文章番号 2 では複文だ。本当という単語は「本当の電車が」という名詞句を作る。その名詞句の関数の構文は主語だ。

文章番号 2 に含まれる「本当」という言葉は、その「電車」は偽者

ではなく、本物であるという意味である。相手に伝えたいのはその六台の電車が偽者ではなく、本物だということである。

3. これは本当の勉強だった。(TC,1996:56)

Kore wa hontou no benkyoudatta.

Ini adalah belajar yang sebenarnya.

文章番号 3 では短文だ。本当という単語は「本当の勉強」という名詞句を作る。その名詞句の関数の構文は述語だ。

文章番号 3 に含まれる「本当」という言葉は、その「勉強」は偽や見せかけではないという意味である。相手に伝えたいのはその勉強は偽や見せかけではないということだ。

4. きのは本当にたのしい 1 日でした。(MN, 1999:63)

Kinou wa hontou ni tanoshii ichinichi deshita.

Kemarin satu hari yang sungguh menyenangkan.

文章番号 4 では短文だ。本当という単語は「本当に」という副詞句を作る。その副詞句は状況語として述語「楽しい 1 日でした」を説明する。

文章番号 4 に含まれる「本当に」という言葉は、現実であり、全く、感動として程度のはなはだしいことという意味である。相手に伝えたいのはその一日は現実であり、全く楽しかったことである。

5. その予想が本当によく当たるのだ。(NA, 2002;74)

Sono yosou ga hontou ni yoku ataru noda.

Perkiraan itu sungguh sering tepat.

文章番号 5 でも短文だ。本当という単語は「本当に」という副詞句を作る。その副詞句は状況語として「よく」を説明する。

文章番号 5 に含まれる「本当に」という言葉は、現実であり、全く、感動としてはなはだしいことという意味である。相手に伝えたいのはその予想が一度だけではなく、現実に関くよく当たるのだ。

6. 本当にありがとうございます。(TC,1996:224)

Hontou ni arigatou gozaimasu.

Sungguh terimakasih.

文章番号 6 でも短文だ。本当の単語は「本当に」という副詞句を作る。その副詞句は状況語として述語「ありがとうございます」を説明する。

文章番号 6 に含まれる「本当に」という言葉は、現実であり、感動としてはなはだしいことという意味である。相手に伝えたいのは主語が心から、感動して、現実に関りがたい気持ちを持つということである。

7. 本当に良いものを認めず。(KP,1996:95)

Hontou ni ii mono wo mitomezu.

Tidak mengakui sesuatu yang *sungguh* baik.

文章番号 7 でも短文だ。本当という単語は「本当に」という副詞句を作る。その副詞句は状況語として目的語「良いもの」を説明する。

文章番号 7 に含まれる「本当に」という言葉は、現実であり、全く、感動としてはなはだしいことという意味である。その「もの」は全く良いものということである。相手に伝えたいのは主語が現実に関く良いもののに、認めないということである。

8. あの店のラーメンは本当においしかった。(NA,2002:180)

Ano mise no ramen wa hontou ni oishikatta.

Ramen milik toko itu sungguh enak.

文章番号 8 でも短文だ。本当の単語は「本当に」の副詞句を作る。

その副詞句は状況語として述語「おいしかった」を説明する。

文章番号 8 に含まれる「本当に」という言葉は、現実であり、全く、感動としてはなはだしいことという意味である。相手に伝えたいのはそのラーメンは全くおいしかったことである。

9. 本当は食べたくなかったんですが、全部食べました。
(NA,2002:3)

Hontou wa tabetakunakattandesuga, zenbu tabemashita.

Faktanya, tidak ingin makan, tetapi memakan semua.

文章番号 9 では複文だ。本当の単語は「本当は」の副詞句を作る。

その副詞句は状況語として述語「食べたくなかったんです」を説明する。

文章番号 9 はに含まれる「本当は」という言葉は、現実であり、逆接関係を表す。主語は食べたくなかったが、全部食べた。相手の考えは主語は食べたかったから、全部食べたということである。主語と相手の考えが違うかもしれない。

結論

本研究から、「本当」の日本語の文での使い方と意味が得られた。

「本当」＋「の」＋「名詞」が日本語の文で主語、目的語、述語になることができる。「本当に」は状況語として述語を説明する。それから述語で

はなくても、形容詞が「本当に」の前も説明する。「本当は」は状況語として述語を説明する。

「本当」＋「の」＋「名詞」の分析から「本当」は偽や見せかけではない、うそではない、真実、本物の意味を持つ。この「本当」の意味は「名詞」を説明する。「本当に」は現実であり、全く、感動としてはなはだしいことである。この「本当に」の意味は形容詞や副詞や動詞を説明する。「本当は」は逆接関係を表す。この「本当は」の意味は形容詞や動詞を説明する。



DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS.....	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR.....	v
DAFTAR ISI.....	vii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	7
1.3 Tujuan Penelitian	7
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	7
1.4.1 Metode Penelitian.....	7
1.4.2 Teknik Penelitian	9
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB II KAJIAN TEORI	11
2.1 Sintaksis	11
2.2 Semantik.....	14
2.2.1 Makna Leksikal.....	15
2.2.2 Makna Gramatikal.....	16
2.3 Kelas Kata	17
2.3.1 <i>Hontou</i>	18
BAB III ANALISIS KATA <i>HONTOU</i> DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG.....	26
3.1 <i>Hontou</i> + <i>no</i> + Nomina	26
3.2 <i>Hontou</i> + <i>Ni</i>	37
3.3 <i>Hontou</i> + <i>Wa</i>	59
BAB IV SIMPULAN.....	69
DAFTAR PUSTAKA	71
LAMPIRAN DATA	ix

KORPUS DATA.....	xvi
SINOPSIS.....	xxiv
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xxx

